



2001年 8月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

2001年8月
第27号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

漢点字変換ソフト「EIBRK」について (11) (木下 和久)	・・・ i
漢文のページ	・・・ 1
川上泰一先生に出会って (第9回) (東野 トシエ)	・・・ 3
連載「点字から識字までの距離」(24)	・・・ 6
点字の読みづらさと漢点字の触読について (岡田 健嗣)	・・・ 9
ご報告とご案内	・・・ 13
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(26)	・・・ 14
「青空文庫」ライブラリー作業マニュアル (西 惇策)	・・・ I

漢文のページ

鹿柴 ろくさい

王維 おうい

空山不見人

但聞人語響

返景入深林

復照青苔上

《空山人を見ず、／但だ人語の響きを聞くのみ。

／返景深林に入り、／復た青苔の上を照らす。》

鹿柴「鹿を飼っておく、かこいのさく。」

ひっそりと静まりかえつた山の中には、もちろん人かげは見えない。ただときどき、どこからともなく人の話し声らしいものが聞こえてくる。(それがかえって山の静けさを気づかせる)その時、夕日のてりかえしが深い林の中にさしこんで、今まで日かげになっていた青い苔の上をまたもや照らしました。(まことに目にしむようなあざやかさである。) ※中西 清『初歩の漢文』(昇龍堂)による。

涼州詞 りょうしゅうし

王翰 おうかん

葡萄美酒夜光杯

欲飲琵琶马上催

醉臥沙场君莫笑

古来征战几人回

《葡萄の美酒 夜光の杯飲まんと欲すれば琵琶

馬上に催す／酔うて沙場に臥す 君笑う莫か

れ／古来征战 幾人か回る》

夜光の玉杯においしいワインをついで飲もうとしていると、馬上で琵琶をかきながら、しきりに「もつと飲め」と促す者がいる。このまま酔いつぶれて砂漠に倒れ伏したとしても、君よ、笑ってくれるな。昔から戦場に赴いた者が、はたして何人生きて帰れたというのか。

「涼州はいまの甘肅省武威。万里の長城の西北端に近く、長城線のかなたはもはやモンゴルの砂漠である。」

※ 『漢詩の心』(プレジデント社)より、守屋 洋



鹿 柴

王 維

空山不 見 人ヲ



但ダ 聞クノミ人語ノ 響ヲ



返景 入り深 林ニ



復タ 照ラス青苔ノ 上ヲ



涼 州 詞

王 翰

葡萄ノ美酒 夜光ノ杯



欲スレバ 飲マント 琵琶馬上ニ催ス



酔ウテ 臥ス沙 場ニ 君莫カレ 笑フ



古来征戦 幾人カ回ル





川上泰一先生に 出会って

(第九回)

東大阪市 東野 トシエ

≪ 昭和六〇年代・平成（承前） ≫

インターネットなどを利用して、盲人と聾者が会話することが可能です。

ところが以前は実際にお会いするとどちらかが点字を覚えるか手話を覚えるかしないと会話が困難でしたが、パソコンを利用すると会話はできるようになりました。

漢点字を学習してパソコンを利用できると大変便利なことがたくさんあります。文章を作成できること、辞書が引けること、そうしてインターネットなどができること。

それから、テキストファイルでデータを持つことができないことなどです。

このようなことができるのでとても嬉しいです。何でもそうですが、そのよさは使用しないと

なかなか理解していただけないようです。

また、川上先生は、『新屋通信』の巻頭言で統合教育についても書いておられたことがあります。

盲教育の現場に漢点字を導入すると、統合教育は可能だと書いていらつしやつたと思います。

私もほんとうにそうだと思います。

現在、統合教育を受けている盲生徒は、特に漢字の学習はどうなさっておられるのでしょうか？

お友達は漢字で教育を受けているのに、その子ひとりには仮名だけの教育だったらちよつと問題があるように思います。

大阪府立盲学校も弱視者は表意文字で、点字使用者は表音文字の教育でした。

私ごとですが、平成十一年の秋に九州漢点字交流会にお招きいただきました。

その会場で川上先生のありし日のことを語らせていただきました。その折りTenTen（東大阪市のボランティアグループ）の方たち（石原久義氏・村尾嘉臣氏・森下順子氏）と四人で行き、ノートパソコンやピンディスプレイやぼつぼつ君を持参し、OPやPotKeyやEBFLYなどの使い

方の実演をさせていただきました。皆様方と親しく交わっていたいただきとても嬉しかったです。

私は『基礎医学用語一覧表』を入力致しました。

これは兵庫漢点字協会が作成されたもので、理療科教科書掲載用語シリーズ（解剖・生理・病理・衛生・鍼灸理論・漢方概論）を中心に書かれたものです。兵庫漢点字協会が御許可して下さい感謝です。

それをひとつにまとめて入力致しました。

その後、私が漢点字で読書しており、医学に係ある熟語を増補させていただきました。筋肉名などの漢点字が分からなくて、私がこのようなものが欲しいと思いつ成致しました。

左に漢点字右に仮名点字と並記して書いてあります。

漢点字の読みの練習などにも御利用していただければ幸いに存じます。

私は漢点字の索引のようなものを作成しようと思ひ羅列していたのですが、順番を変更することができませんのでそれは中断しました。

次に縦八センチメートル横二十センチメートルほどの用紙を使用し、縦八センチメートルの所にパンチで二箇所穴を空けカード式にしリングで閉

じることになりました。

一枚のカードに漢点字を一字書き、訓読み音読み、漢字の持つ意味、字式、一連性文字などの関連文字、熟語、JISコードやシフトJISコードなどを書いています。

これは追加は可能ですし、差し替えることができますので便利です。もう段ボール一杯になりちよつと捜すのが面倒です。

字式は野島静先生執筆の『漢点字字式索引』を参考にさせていただいています。

漢点字は偏と旁りでできていますので、字を口で説明するのに大変便利です。晴眼者と漢字の会話をするときこの本を利用していただいています。

また村上幸久氏執筆の『漢点字簡易辞典』を座右に備えて愛用しております。

以前は、盲学校では弱視者にも点字で教育をされていたそうです。その方が病院に勤務されるようになり、漢字が必要に迫られ学習なさったのですがなかなか覚えられなかったそうです。そこで漢字と漢点字を併用して学習されたそうです。

そうすると漢字も漢点字も両方覚えられたそうです。ということは、漢点字がそれだけ漢字に近

いといえるのではないのでしょうか？

私は『漢点字解説』で漢点字を学習していたころは、『欧州紀行』を読むのが精一杯で、字式を覚えるところにまで頭が働きませんでした。

もっと字式のことでも学習しておけばよかったと反省しています。きっと川上先生はちゃんと教えて下さっていたと思うのですが、私の頭がフォーマットしてしまっているのです。

羽化の会から発行されております『羽化』や『横浜通信』などの雑誌の中で、『漢点字ってどんな字』をはじめ、漢点字の学習に役立つものを連載して下さっています。感謝です。

最近では、Windows上でEBFLYというソフトを使用し、CD-ROMで、『大辞林』や『最新医学大辞典』や『漢字源』などで検索することが容易になりました。

熟語を調べるには『大辞林』がいいですが、漢字のことを調べるには『漢字源』は最適です。部首や画数やその字の持つ意味などが分かります。

これらの辞書を点字で持つには図書館のような建物が必要ですから、住宅事情の悪い日本では不可能ではないでしょうか？

それに捜すのに大変時間が掛かります。

パソコンを利用すると瞬時に調べることが出来ます。また、インターネットを利用してYAHOOやインフォシークなどを使っていろいろなことを検索して調べることもできるようになりました。

この拙文は、漢点字直接入力で書いているのですが、漢点字を忘れて仮名漢字変換してもどの熟語が適当なのか分からなくて、何度も『大辞林』のお世話になっています。

ところが『大辞林』で調べても、一般にはどの字がよく使用されているのか分からないことがあります。

先日、ネンパイと書くのに、年輩でもよいが年配の方がよく見掛けると教えていただきました。やはり普段に読んで身に付けるのが一番よいのだなあと思いました。それができるのは漢点字ならではの思いです。

中途失明の方は漢字の知識はおありですが、残念ながら今は見えなくなられて墨字文を読めなくなっておられるのですから、ぜひ従来の点字と同様に漢点字をも学習され、漢点字交じり文を読んでいたくださると思います。

きつと以前の漢字がよみがえり漢点字を学習し

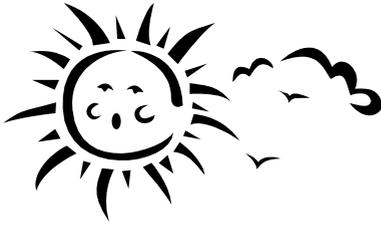
てよかったと思っただけのことでしょう。

私は数年間漢点字で読書しないときがありました。そうすると『新星通信』でさえ読むのに時間が掛かるようになりました。

漢点字は有本圭希^{けいすけ}氏のように能力がある人が学習するもので、私のような凡才が学習するものではないのかなあと思っただけのこともあります。

しかし従来の点字では物足りなく感じ、漢点字交じり文を読みはじめるとだんだん索引がなくても読めるようになりました。

(つづく)



点字から識字までの距離 (二三)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)

人間が言葉を獲得していく過程について、非常に興味深い内容の本が、最近中公新書から出版されたので、今回はその本を紹介したい。『子どもはことばをからだで覚える』(正高信男著 中央公論社)というのがその本である。

人間の子どもは生後六週間から八週間たって、泣き声以外の音声を発しはじめるようになる。非常に気分の良いくつろいだときに「アー」とか「クー」とか響く、リラックスした声が出はじめる。これを英語では響きの通り「c o o i n g」と表記する。このクイーイングが赤ちゃんの出すものとも最初の前言語的音声だが、ヒトの音声言語とは未だかなり隔たりがある。それが言葉らしいものに変化する兆しを見せるのは、生後六ヶ月後後に発する「バブバブ」などの喃語(英語では

babbling) の出現による。クレーイングと喃語の違いは(一)音節が複数あること、(二)各音節が子音プラス母音の構造を保持している点で「アーアーアー……」という過渡期の喃語から「バーバー……」という基準喃語へと進行する。



しかし、多音節の発生は喃語の出現以前にも行われている。それは「ハ・ハ・ハ」という笑う行動の中である。この呼気の断続を伴う笑いは新生児でも観察されるが、声を立てて笑う行動が出現するには四ヶ月を待たなくてはならない。新生児には口腔の奥に空洞がないために、息は鼻から抜けるばかりで笑い声が発せられることがない。それが四ヶ月を過ぎた頃、そこに空洞ができ、声帯の振動がそこで増幅されて声が発せられる。この笑い声をたてることが実は子ども発話訓練の一環であることが分かってきた。

声を立てて笑うという行動は決して単独に現れるのではなく、はじめは下肢を何度も繰り返し蹴りながら笑うのである。それが生後六ヶ月から七ヶ月を境に、足による同期が今度は手による同期へと移行する。手を水平や垂直に繰り返し振った

り、おもちゃなどを机などにたたきつける仕草を英語でバンギング(banging)というが、笑いがこのバンギングと同期するようになると、笑いの一音節の長さが短くなり、今までも速いテンポで、リズムカルに手を連動させるようになってくる。

つまり、今までもよりも細かい周期で呼気の断続的な反復ができるようになる。喃語が発せられる時期が丁度この頃に当たり、この頃発せられる喃語のテンポと笑いのサイクルがきわめて一致する。

しかし大人並みの子音が発せられるようになる、発声と手の運動との間の同期は急速に消失してしまう。同時に笑いと手の同期もぱったりと消え去る。このことから音声言語の発声の基礎となるパターンを習得するために、手足の運動が道具的に用いられていたことが示唆されている。

赤ちゃんは生まれて半年もたたないころ、すでに「バ・ダ・パ」といった音の知覚ができ、他者の話し声を音楽として耳にするうちに、メロディとして知覚していたものの構成要素を、細かに弁別し出す。その音楽的経験を経て、語彙を切り出し、記憶したとき、その情報をもとに喃語を話

し出すという。そうした点で、意味が分かる分からないに関わらず、赤ちゃんに歌ったり話しかけてやるのが、ことばへのレッスンの出発点になる。



ところ、この本の最終章に非常に興味ある実験のレポートが載っている。その実験とは視点（移動）動詞（行く・来る、あげる・もらう、売る・買う等）の使用法に関するもので、具体的には「今日、遊びに来る」と一方が尋ねたら、「うん、遊びに行く」ないしは「今日は遊びに行かない」と答えなければならぬわけだが、小学校低学年位の子どもたちでは誤用が多いという。小学一年生百人を対象に著者はこの使い分けができるかどうかを調査してみた。一人について二十回、計二千回の試行の結果、正解率は五四%であった。この実験の中で明らかにされたのは、視点動詞の習得には話者の身体の運動が不可欠であるという事実である。生徒が発話する場面をビデオカメラで真上からモニターしてみると、「行く」という語を産出するときには、自分の身体を中心よりも外側に向かって腕ないしてを

動かす仕草が多数を占め、「来る」という動詞の産出に際しては、反対に自分の身体を中心に向かつて、外側から腕ないし手を移動させる動きが多数を占める事が判明した。先に回答に適切に回答したグループと、できなかったグループに分けて同じ実験をしてみると、前者では八五%もが先のような動きをした。逆にできなかったグループで、回答は誤っていたが身体の動きは正しく反応したものと、回答も身体の動きも共に誤っていたものに対して、一年後に再度調査を実施したところ、前者の正解率は非常にアップしたにもかかわらず、後者ではやはり五〇%以下であった。

従って、動詞の発話を習得する以前にまず、それぞれの語の表す運動パターンをかなりの程度忠実に反映する身体運動の発現が先行する事がこの実験から示唆されている。「ことばは、『からだ的思考』の介在なしには習得不可能なのだ」とこの本は結ばれている。



点字の読みつらさと

漢点字の触読について (二六)

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

五 点字の成立とその周辺 (承前)

カナ文字運動 (つづき)

〔日本語点字〕の成立には、カナ文字運動が大き
く影を落としていました。明治期のカナ文字運動
は、現在の私たちから見て、想像を超えたうねり
を見せていたのでした。

明治維新の前後から、西欧文明が我が国にどつ
と流入して、否が応でもその力を見せ付けまし
た。我が国は、科学の力、経済の力、何をとって
も、そのような西欧文明に太刀打ちできるものを
一つとして持っていませんでした。その圧倒的な
力の差の理由を、そのころ西欧を見て来た人々
は、国民の教育水準の差にあると考えました我が
国が西欧と方を並べる力を持つためには、どうし
ても国民に西欧人並みの実力を付けさせなければ
ならない、そのためには国民の教育が必須であ

る、と考えたのでした。

当時の日本の非識字率（文盲率）は、四割に達
していました。実はそれは無理のないところで、
国民の大多数は農民だったからです。当時の経済
を支えていたのは、農業生産でした。徳川幕藩体
制では、そのような農民の移動は許されていず、
厳しい租税の取り立てと、気候の変動や病害虫の
発生による激しい凶作が、農民を、生活を営むの
もままならないという状態にまで追い込んでいた
のでした。そのような中で文字を習得できた人々
は、武士や公家の外、都市の裕福な町人（大商
人）と裕福な農民（庄屋や名主）の階層に限られ
ていました。

しかし、それでも生活に少しの余裕がある人々
は、子弟を寺子屋へ通わせて、「読み・書き・算
盤」の稽古に努めたのでした。時代が武士の支配
と農業生産から、商人の台頭と交易の拡大へと動
いていることを、人々は肌で感じるようになって
いたからでしょうか。

明治のジャーナリストで文学者の福地桜痴は、
前島密のカナ文字運動について、大変興味深いこ
とを言っています。

それによりますと、前島が念頭に置いていた日

本語は、江戸後期の武士の使っていた話し言葉で、“そうろう（候）を”付ければ、そのまま文になるものであった。話し言葉がそういうものであるならば、難しい漢字を使うこともないだろう。話し言葉をそのままカナ書きしても充分理解し得る。

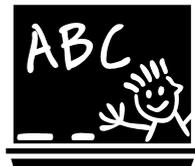
そうであれば、漢字を廃せば、文字の習得が格段に容易になって、文字の普及も一段と進むに違いなし、というのです。（亀井秀雄著、『明治文学史』、岩波書店）

これは、福地桜痴ふくちおうちの言う初期の〈言文一致〉に合致するもので、話し言葉と書き言葉を一致させることが、読み書きの普及に大いに役立ち、国民の教育水準の上昇にも繋がるに違いないと考えていたのです。すなわち福地は、前島がカナ文字を推奨するのは、前島が考える日本語が特定の話し言葉で、そのまま文章になり得るものであったこと、また、そのような〈言文一致〉こそが、今後の日本語の文章のモデルであると考えたからと言うのです。（同前）

この〈言文一致〉については、もう一つ知っておく必要があります。現在でも以下のような認識の人がおられますが、当時は大なり小なりこのように考えられていたと言われています。

すなわち、ヨーロッパの言語は、書き言葉と話し

言葉に差異がなく、話されたことを文字に写せば、そのまま文章になるものである。またその文字は、アルファベット二六文字で全てが表されて、甚だ効率的である。この効率こそが教育に生かされて、民意の向上をもたらし、あらゆる方面で、世界をリードすることになった。我が国もこれに倣って、民意の向上を図らなければならない。



このような〈言文一致〉の考え方は、欧米の言語の優位と、日本語の欧米語化への希求と流れて行きました。西欧の文字であるアルファベットに相当する文字は、日本語にないか？ここで発見したのが〈カナ文字〉だったのです。

カナ文字は、日本語の表現を全て表記し得る、これこそが話し言葉を紙の上に書き留めるための日本の文字だ、と言うのです。

郵政の父・前島密まえじまひそかは、このようにして日本語のカナ文字表記を押し進めました。また、我が国の近代的な国語辞典の祖『大言海』（へんさん）を編纂した大槻文彦博士も、識字率の向上と民意の上昇を図って、西欧並みの教育水準を達成するには、文字の改革、とりわけ漢字の廃止は欠かせないと考えられたのでした。

しかし、周知の通り〈言文一致〉の運動は、その後〈カナ文字運動〉から大きく離れて行きました。

私たちが現在〈言文一致体〉という言葉を用いるのは、時、それとともに思い浮かべられるものは、二葉亭四迷の『浮雲』という小説ではないでしょうか。西欧思想の流入の中で成長した若者と、西欧思想に憧れる若い娘の生態を活写した、写実主義の小説と言われているもので、ここで言う〈言文一致〉とは、この写実主義の表現法の理念を言います。話された言葉を文字に置いて、そのまま書き言葉にするという本来の〈言文一致〉は、二葉亭や坪内逍遙など、多くの文学者によって取り上げられ、試みられたものでした。

しかしここでは、全く裏切られたのでした。すなわち、話し言葉をそのまま書き写すことで、新たな書き言葉の創出が可能であるかのように期待しては見たものの、〈言〉と〈文〉とは、けして地続きではないことが、反対に証明されたのがこの小説だと言ってよいものでした。しかも『浮雲』ばかりでなく、当時の文芸作品は、ルビの付いた、あるいは総ルビの漢字仮名交じり文で書かれていたので、カナ文字で表すことを標榜した初

期の〈言文一致〉も、その理念とは裏腹の作品を送り出したことになったのでした。

また、明治の初期の非識字率が四割であったということは、前島の言うのと異なって、決して高い数値ではなかったのです。確かに義務教育の施行にも関わらず、就学率は低迷してはしましたが、社会では出版ジャーナリズムの台頭が、新しい読者層の創出に成功して、活字の文化を開花させたのでした。その読者層の基底には、江戸後期から力を溜めていた都市の町民と、明治期に入ってから農村から流入した新しい都市市民が、その原動力となったのでした。

彼らはカナ文字だけで書かれた読み物を求めたわけではなく、新たな情報や知識を、新たな文字表現によって表された文章を求めたのでした。

そのような出版界の中でも力を蓄えたのが新聞ジャーナリズムでした。



明治二十年代から三十年代にかけて、欧米に倣った報道の形が整って、現在の新聞の基礎固めが完成しました。新たな読者層の出現とは、文字の読める人が増え、識字率が向上したことを意味し

ますし、国民の、文字から知識や情報を得る力が養われて来たことをも意味しています。

このことは、初期のカナ文字運動の理念が崩れ去ることにもなって、日本語の表記法の基本が、漢字仮名交じり文であることを、現在にまで伝えることとなったのでした。

その後のカナ文字運動は、前号でも少し触れましたように、住友銀行の山下芳太郎によって押し進められました。山下は、通商上の日本語の表記が、欧米のそれに比べて甚だしく非効率であることに驚いて、日本語の表記を簡便なものにしなければならぬことを痛感しました。

山下は、カナタイプライターを試作して、その普及を図るとともに、『国字改良論』を発表して、日本語そのものを改良すべしと唱えました。すなわち、カタカナで左横書きし、漢字は



廃すべし、同音異義語はやまとことばにおきかえればよい、というもので、明治初期の運動より、世界戦略を含んだものと言えるものでした。

初期の運動のように、進んだアルファベットに相対する文字としてのカナの発見ではなく、積極的に日本語の改変を目指して、世界の通商の武器としてとうとう目論見を含んでいたのです。

もう一つの流れとして、アルファベットで日本語を表記しようという、〈羅馬字運動〉がありました。ローマ字は、欧米人が日本語を表記するために開発された表記法でしたが、日本人もその国際性に共感して、多くの文学者を巻き込んで、その運動は高まって行きました。

その中でも最も中心的に活躍したのが、物理学者の田中館愛橋博士でした。

田中館博士は、日本語も国際化を図るためには、国際的な表記法を採るべきと主張して、アルファベット、すなわちローマ字を日本語の表記法とすべしと訴えられました。博士ご自身も日本語で著される時は、ローマ字が使われたとのことでした。

これらカナ文字運動もローマ字運動も、共通して掲げたのが、日本語の偏狭性でした。日本語は日本の中、しかもその中でも文字を習得した極僅かの人にしか通用しない、また読み書きも非効率である。

それを克服するためには、誰でもが使えて、世界に通用する文字と表記法の開発が急務であるという

のです。

この主張は形を変えて、現在にも脈々と引き継がれています。昨今衆目を集めた〈英語第二公用語論〉は、形を変えたカナ文字運動・ローマ字運動ではないでしょうか。

残念ながらカナ文字やローマ字は、日本語そのものが変化しない限り、日本語の表記を担うことはできないことが分かりました。従って、山下芳太郎や田中館愛橋博士の提起した課題は、まだ解決されておりません。特にネオ・マーカントイズムの時代と言われている今日、それは益々強く問われているとも言えます。国際的な通商の交渉には、久しく英語が公用語として用いられています。国内でも英語を公用語とすることで、偏狭な日本語にとらわれずに、国際化の垣根を低くすることができると考えるのも、宜なるかなと思われず。

しかしながら、点字の世界はそれとは全く様相を異にして来ました。日本語に取り残された日本語点字について、次回から考えて見たいと思いません。

(つづく)

▼「報告とご案内」▲

1. 〈青空文庫〉の漢点字変換のマニュアルがまとまりました。

本会では昨年秋より、インターネット上に開設されております電子図書館〈青空文庫〉の電子データをお借りして、漢点字文書への変換を試みて参りました。この度、そのマニュアルがまとまりましたので、本誌に掲載致しました。本会の活動の目標の一つである、漢点字のライブラリー作りも、大幅に行するものと思われず。ご期待下さい。

また、本会員以外のEBRKC・EBRKNWをご利用になつておられる皆さまには、入力マニュアルと、ともに、入力の実例としてもご覧いただけます。

お試下さい。

〈青空文庫〉の関係者の皆様には、本会の活動へのご理解とご厚意に深く御礼申し上げます。



編集注

本文の続きは、二十二頁になります。



漢点字ってどんな字？ 26

第二基本文字 その2

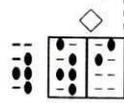
1. 第一基本文字と関連した漢点字

第一基本文字 第二基本文字

..	<宿>	写	(宀、かんむり)
..	<学>	愛 光 文	(かんむり)
サ	<都>	陸	(邑阜)
ス	<発>	冬 罪 虎	(夂夕网虎、かしら)
ソ	<馬>	牛 羊 豚	(牛羊豕豸、動物)
チ	<竹>	雨	(竹雨、かんむり)
ツ	<土>	土	(土土)
ト	<戸>	居 老	(戸屍老、かんむり)
ネ	<示>	衣	(示衣)
ノ	<私>	米	(禾米)
ハ	<走>	延 支 遊	(走支進、にょう)
ヘ	<玉>	王 主	(玉王主)
ミ	<耳>	身 足	(耳身足)
メ	<目>	自	(目自)
モ	<門>	气 包 区	(門气匸、かまえ)
ヨ	<店>	原	(广厂、たれ)
リ	<分>	今	(八人、かしら)
..	<日>	白	(日白)
..	<困>	我 式 用	(口戈、かまえ)

2. 第一基本文字との関連の薄い漢点字

第一基本	第二基本文字	第一基本	第二基本文字			
オ	頁	君	ホ	方	夕	死
カ	金	川	マ	石	立	
コ	子	工	ム	車	虫	羽
シ	市	色	ヤ	病	山	矢
セ	食	鳥	ユ	行	弓	
タ	田	谷		心	桜	菊
フ	女	舟	ン	止	欠	
ヘ	玉	将				



牛

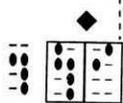
の符号は、



羊

馬と合わせて

〈草食動物〉



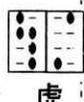
冬

の符号は、

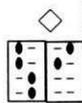


罪

発と合わせてへかしら



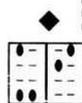
虎



陸

の符号は、

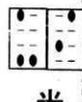
都と合わせて
〈おおざと、じざと〉



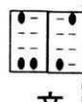
愛

の符号は、

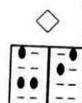
学と合わせて
〈ツメ冠、ナベフタなどの冠〉



光



文



写

の符号は、

宿と合わせて
〈ウ冠、ワ冠〉

おねえさん 今日第二基本文字の2回目ね。
未来 いよいよ、漢点字らしくなって来たわ。
志朗 復習しよう。

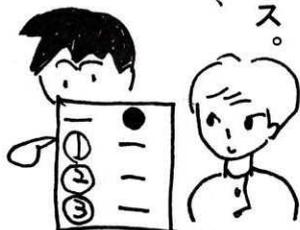
お 未来ちゃん、まとめてね。

① 第二基本文字はニマス。

一マス目に点字符号、
ニマス目に
1、2、3の点の
どれか入るんだ。

② 部首になる。

第一基本文字や関連する基本文字
と同じように、部首になるんだね。



③ 第一基本文字と関連した文字と、
そうでない文字がある。

今回は関連した文字だね。

お それでは続きをやりましょうか。
第一基本文字(一マス漢点字)
といっしょに考えてね。

「 」内のカタカナは、漢点字の
下6点の仮名読みを示しています。

チ

雨

あめ

ウ

志 第一基本文字の「チ」は、

竹、つまりたけかんむり。

この「チ・1の点」は、

雨だからあめかんむり。

そうか、

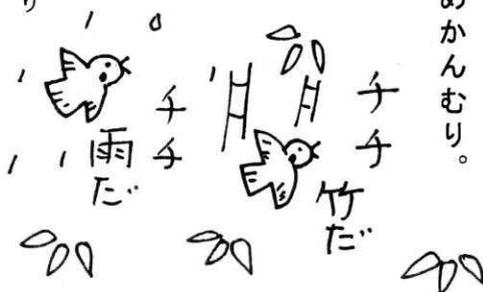
(チ)は、
冠なんだね。

雷

ライ
かみなり

篤

トク
あつい



ツ

士

士

さむらい

未

（二・二・二・ツ）の符号は、
一マス漢点字では、
上の横線と下の横線の長さが違う

未
土は下が長くて、土は上が
長いからね。

志朗の志は
土の下に
心。



志

社

社

しゃ

仕

仕

つかえる

开



ト

居

居

キョ

老

老

ロウ

志

（二・二・二・ト）の符号は、
第一基本文字では、

第二基本文字では居（戸冠）と

老（老冠）

（二・二・二・ト）の符号は
垂れのある冠ね！

肩

肩

かた

届

届

とどく

者

者

もの

由は田の近似文字

田

田

由

由

外側に点



ネ

衣

イ
きぬ、ころも

志 (ネ) は、

示と、衣なんだ。

両方とも偏になると、カタカナのネにそっくりだ。



未 本当！ 示 ↓ ネ

衣 ↓ ネ

宗 シユウ、ソウ
むね

祐 ユウ
(たすける)

依 イ
よる

初 ショ
はじめ、はつ
そめる

ノ

米

ベイ、マイ
こめ、よね

未 (ノ) の第一基本文字は、

私。つまり 禾。

どちらもお米に関係しているのね。

禾は、穂が垂れた作物の形だつて。



志 采 _{ノギメ} もこの (ノ) なんだ。

秋 シユウ
あき

委 イ
ゆだねる

粉 フン
こな

番 バン
つがう

ハ

延

エン
のばす

支

シ
ささえる

遊

ユウ
あそぶ

未 (ハ) は、第一基本文字では

走。これ何かな?

志
ひとまとめに繞とすると
いいんだって。

ニョウ

ハ
ン
ハ
ツ



走 ↓ 走繞 (そうによう)

延 ↓ 延繞 (えんによう)

支 ↓ 支繞 (しによう)

遊 ↓ 之繞 (しんによう)
(しんにゆう)

未 繞もたくさんあるのね。

しんにようは (ヒ) だと思っていたのだけど。

志 前に出てきたさんずい

(ハ) のように、

字がたくさんある部首は漢点字では二つ用意されているんだ。

未 しんにようにも

(ヒ) で表すしんにようと

(ハ) で表すしんにようの

二つあるのね。



☆ (三三三三) ヒ で表すしんによう ☆

連 (三三三三) レン
つれる、つらなる

迷 (三三三三) メイ
まよう

☆ (三三三三) ハ で表すしんによう ☆

運 (三三三三) ウン
はこぶ

逐 (三三三三) チク
おう

☆ (三三三三) ハ で表すその他のによう ☆

超 (三三三三) チョウ
こえる

廻 (三三三三) カイ
めぐる

翅 (三三三三) シ
つばさ



第二基本文字

羽 (三三三三) 回 (三三三三)





王
オウ
きみ

主
シュ
あるじ、ぬし

志 第一基本文字では「へ」は、「玉」。

未 点のあるなしや、点の位置が少し
違っただけね。
玉、王、主の入った字はたくさん
あるわよ。



注
チュウ
そそぐ



住
ジュウ
すむ



理
リ
ことわり



宝
ホウ
たから



駐
チュウ
とめる



柱
チュウ
はしら



聖
セイ
ひじり



国
コク
くに



老
ロウ



雨
ウ

第二基本文字



考
コウ
かんがえる



両
リョウ
ふたつ、
ふたつながら

近似文字

今日の近似文字



琴
キン
こと

「琴」は
漢点字では
「王」二つを
とって
「へ・へ」

お 今日はこちらまでね。



(作 岡田・ 絵 吉田)

インターネットのライブラリー『青空文庫』のファイルを、漢点字のファイルに変換する作業マニュアルが完成しました。

会員の西淳策さんにおまとめいただきました。E I B R K Wをご使用の皆さまには、ご参考になるものと存じます。

「青空文庫」ライブラリー作業マニュアル

(1)「青空文庫」へのアクセス

「青空文庫」(以下文庫と略)のホームページ・サイトは

<http://www.aozora.gr.jp/> です。

まず文庫の使い方を知るには、トップページから「青空文庫の早わかり」をご覧ください。この文中にはいくつもリンクが張っており、更に詳しい内容を知ることができます。

①収録作品のダウンロード

a. 図書カード

分かりやすくするために夏目漱石の『三四郎』を例にとり進めます。

文庫のトップページで、「作家別本のリスト」の中の「な」をクリックすると、「な」の字に始まる作家の名前がその作品名と共にずらずらと出ます。漱石のように作品の多いメジャーの作家は、「→夏目漱石」のようにリンクになっているので、それを選ぶとその作品群が出てきます。

この中から『三四郎』をクリックすれば、その「図書カード」が出ます。

b. ダウンロードの仕方

「図書カード」には、作家と作品の紹介のあと、4種の形式のファイルが示されています。このうち我々が利用するのは、ルビつきのzip圧縮テキストファイルです。

この『三四郎』の場合、「sansiro__ruby.zip」を選びます。

この箇所をダブルクリックすればダウンロードの手続きが始まります。

ダウンロードの仕方はウィザードに従って進めて下さい。

②解凍作業

このzipファイルを解凍すると、sansiro__ruby.txtが展開され、通常のテキストファイルが得られます。

ダウンロードしたファイルは拡張子が「.zip」となっておりLHA(拡張子「.lzh」)とは別種の(欧米で主流の)圧縮ファイルです。従って、解凍するツールはソフト(「LHMelt」や「まめファイル」など)と、これに付随して働く(LHAの場合のunlha 32.dllに相応する)unzip32.dllが必要になります。LHAと同様これらはフリーソフトですから、検索サイトから無料でダウンロードできますし、各雑誌の付録のCD-ROMにも入っているのではないのでしょうか。

一方、このDLLを必要としない便利なソフトもあります。解凍のみのLhasaとか圧縮・解凍が可能なLhacaなどです。デスクトップ上でドラッグ&ドロップしてアイコンに重ねあわせるだけでOKです。

(2)漢点字用テキストへの変換作業

同じテキストファイルでも文庫のテキストと漢点字変換用テキストとでは、表現に違った形式がありますので、漢点字用に変換する必要があります。

①文庫テキストファイルの構成

『三四郎』を例にとりますと、例一のようになっています。

ご覧のように、ファイルの冒頭に、一般の読者のための説明が入っています。我々にも参考になるところですが、この部分は、漢点字用テキストとしては不要なので、消去することになります。表題の部分のレイアウトについては、章番号その他全体のレイアウトとともに別項にまとめてあります。

②文庫との違い

以下箇条書きにします。文庫を(A)とし漢点字用を(K)とします。

イ. 段落行頭のスペースは、(A)は1マス、(K)は2マス。

ロ. ルビの表記は、(A)は、《》で括って著され、(K)ではルビ符「`」を介して入れ、句読点や閉じ括弧がそのあとにくる場合を除いて、一マスのスペースを入れる。

ハ. 棒線は(A)では、「——」のように[JIS213d]を二つ並べるが、(K)では「 」と、いわゆるオーバーライン[JIS2131]を使う。

ニ. 3点リーダーは(A)では「……」と二つ使うが、(K)で「…」と一つとする。

ホ. 伏せ字は、(A)は「*」を使っているが、(K)では「■」[JIS2223]を使う。

ヘ. 英文字について、(A)は英文モード(半角)が使われているので、(K)では全角にするとともに、「“”」を外国語引用符として使う。

ト. 傍点は(A)では入力者注として[#「xxx」に傍点]の形式で付記するが、(K)では「`xxx`」の表記に改める。

チ. その他(K)特有の表し方が少なくありません。例えば2~3人を(A)では二三人としている場合には、二`三人にするとか、繰り返し記号の表現、数字の扱い方や中点「・」の処理など、多くの違いを修正する必要があります。これらは[EIBRK用、入力マニュアル]に準拠します。

③ツールTextconv.exeの活用と操作

②にあげた違いのいくつかを漢点字用に修正するのに、Textconv.exeは有効です。その機能をあげると、ロ. ルビの形式変更、ハ. 棒線のオーバーラインへの変更、ニ. 3点リーダーの修正、ホ. の伏せ字の変更が自動的に転換できます。

その手順は、Textconv.exeのファイルをダブルクリックすると、そのウインドウが開きます。「読み込み」タブをクリックして、変換しようとするファイルを開きます。次に「変換」のタブをクリックすると「変換モード選択」ウインドウが開きます。この中の「外字コード・記号変換」の欄の「青空文庫ファイルの変換」にチェックをいれます。また、「全・半角文字の変換」の欄では「全部全角にする」をチェックします。

これで「OK」をクリックすれば変換が行われます。あとは「保存」のタブをのクリックで完了です。

④手作業での修正作業

②項のヘ. 以降は手作業が必要です。検索機能を利用して下さい。

⑤EIBRKWがやってくれること

②項のイ. のスペースはEIBRKWが修正するので、そのままOKです。

(3) 校正作業

漢点字用テキストへの変換が完了したら、担当の二人に順次回送して校正作業を行います。校正の味は上記の各変換作業に問題の箇所が無いか

どうかを点検するのが主体になります。

(4) レイアウトの修整

『三四郎』の例を例二に示します。(頭部と中間部と末尾を抜粋)ここに掲げたものが、漢点字データのソースです。このテキストファイルを変換しますと、漢点字の文が誕生します。

ご覧のように、最後尾には青空文庫の奥付をそのまま配置しました。

(5) 漢点字変換作業 (E I B R K W)

表現の修正及びレイアウトの修整が完了したら、変換作業に移ります。

EIBRKWによる変換作業は可能ならば作品全部を一括して行ってもよいのですが、このソフトの容量には限界があるようです。

大体ですが、漢点字にして300行、200頁ぐらい、100KB~120KB程度のファイルサイズとのことです。

ちなみに、この『三四郎』のファイルは容量の大きさから三つに分割していつでも変換できるようにしてあります。 以上

例一 ~青空文庫から入手できるテキストファイル

三四郎
夏目漱石

【テキスト中に現れる記号について】

《》:ルビ

(例) 頓狂《とんきょう》

| :ルビの付いていない漢字とルビの付く漢字の境の記号

(例) 福岡県 | 京都郡《みやこぐん》

[#]: 入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定
(数字は、底本のページと行数)

(例) ※[#※]は「さかなへん十一の下に巾」、
第4水準2-93-37、23-13《かます》

—

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂《とんきょう》な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌《はだ》をぬいだと思ったら背中にお灸《きゅう》のあとがいっぱいあったので、三四郎《さんしろう》の記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠のくような哀れを感じていた。それでこの女が車室にはいつて来た時は、なんとなく異性の味方を得た心持ちがした。この女の色はじっさい九州色《きゅうしゅういろ》であった。

~~~~~(中略)

野々宮さんは、招待状を引き千切って床の上に捨てた。やがて先生とともにほかの絵の評に取りかかる。与次郎だけが三四郎のそばへ来た。

「どうだ森の女は」  
「森の女という題が悪い」  
「じゃ、なんとすればよいんだ」  
三四郎はなんとも答えなかった。ただ口の中で迷羊《ストレイ・シープ》、迷羊《ストレイ・シープ》と繰り返した。

## 例二 ～漢点字変換用テキストファイル

三 四 郎

夏 目 漱 石

=====

—

うとうととして目がさめると女はいつのまにか、隣のじいさんと話を始めている。このじいさんはたしかに前の前の駅から乗ったいなか者である。発車まぎわに頓狂`とんきょう`な声を出して駆け込んで来て、いきなり肌`はだ`をぬいだと思ったら背中にお灸`きゅう`のあとがいっぱいあったので、三`四郎`さんしろうの記憶に残っている。じいさんが汗をふいて、肌を入れて、女の隣に腰をかけたまでよく注意して見ていたくらいである。

女とは京都からの相乗りである。乗った時から三四郎の目についた。第一色が黒い。三四郎は九州から山陽線に移って、だんだん京大阪へ近づいて来るうちに、女の色が次第に白くなるのでいつのまにか故郷を遠くのような哀れを感じていた。それでこの女が車室にはいって来た時は、なんとなく異性の味方を得た心持ちがした。この女の色はじっさい九州色`きゅうしゅういろ`であった。

~~~~~(中略)

野々宮さんは、招待状を引き千切って床の上に捨てた。やがて先生とともにほかの絵の評に取りかかる。与次郎だけが三`四郎`のそばへ来た。

「どうだ森の女は」
「森の女という題が悪い」
「じゃ、なんとすればよいんだ」
三`四郎`はなんとも答えなかった。ただ口の中で迷羊`ストレイ・シープ`、迷羊`ストレイ・シープ`と繰り返した。

=====

⋯⋯⋯ 青空文庫版奥付 ⋯⋯⋯

底本__ 「三`四郎`」角川文庫クラシックス、角川書店

1951(昭和26)年10月20日 初版発行

1997(平成9)年6月10日 127刷

※ 本作品中には、身体的・精神的資質、職業、地域、階層、民族などに関する不適切な表現が見られます。しかし、作品の時代背景と価値、加えて、作者の抱えた限界を讀者自身が認識することの意義を考慮し、底本のままとしました。(青空文庫)

入力__ 古村充

校正__ かとうかおり

2000年7月1日公開

青空文庫作成ファイル__ このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

⋯⋯⋯

かゆ く つ 了 す 腹 透 き と ほ 徹 る は く ろ 白 露 か な

福 永 耕 二

紀 の 国 に 闇 大 き かり 鉦 叩

かねたたき

森 澄 雄

秋 風 や 模 様 の ち が ふ 四 二 つ

原 石 鼎

(「歳時記」より)

編集後記

先日のお話になりますが、友人と旅行に行ってきました。友人は、四・五年前より杖での生活を送っています。本人はいたつて気持ち元気で、いつまで自分の足で歩けなくなるか判りませんが、体が動くうちは、やってみたい事は何でもやりたいと、手話の学校等に通っています。

(体調を調節しながら)

旅先で、人の流れからだいぶ遅れるので、体調を心配しました。彼女の動きが以前より、遅く感じたからです。

すると、「大丈夫、歩くのが上手になったでしょう?」

詳しく話を聞くと、「杖を使い始めの時、ぶつかるとあからさまに睨まれたり、杖を蹴られたりする時もあったのよ。体の疲れより、人にぶつからないようにと、気遣って家に帰るとぐったり。」

疲れるとは聞いていましたが、そんなことがあったなんて、胸が痛みました。

「最近の色々な事件を聞くと、恐いと思うこともあるけど気にしていたら、なにも出来ないし。」

小さい頃からの付き合いで、頑張りやさんとは知っていましたが、彼女の前向きな姿勢には、あらためて恐れ入りました。

次は二人で、海外旅行も計画中です。

次回の発行は十月十五日です。

宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。 表紙絵 岡 稲子

連載 漢点字変換ソフトEIBRKについて (11)

木下 和久

前号に引き続きWindows版のEIBRK(プログラム名はEibrkw.exe)について説明します。今回が最終回となります。

m) ピンディスプレイ・ポートNo.

このWindows版のEIBRK(Eibrkw)は、視覚障害者の方がピンディスプレイを使用して、画面に表示される点字をピンディスプレイにも表示できるようにしてあります(MS-DOS版のEIBRKはEIBRKBという別個のプログラムとしています)。そのために、プログラムの機能がピンディスプレイを使うときとそうでないときとはいくらか異なっています。ピンディスプレイを使わない場合は、下記に示すピンディスプレイの機種を「使用しない」に指定してください。

ここではピンディスプレイをつなぐRS232CのポートNo.を指定します。RS232Cポートが2つ以上あるコンピュータの場合は、ピンディスプレイと点字プリンターのポートをそれぞれ専用にすることができますが、1つしかない場合はそうも行きません。その場合は点字印刷の時にプリンターとピンディスプレイをつなぎ替えたり、切り替えたりする必要があります。そのため、プリンター用とピンディスプレイ用のポートが同じ場合は、印刷を始めるときと終了したときに切り替えができていかどうかを確認するメッセージを出すようにしています。

n) ピンディスプレイ・ボーレイト

ここでは、ピンディスプレイをつなぐポートのボーレイトを指定します。上下の矢印キーでボーレイトを選んでください。通常は9600bpsが使われます。同じポートを点字プリンターと共用する場合は、切り替えの度にボーレイトを指定し直さなくてよいように、両者同じ値としてください。

o) ピンディスプレイ・機種

現在のEibrkwはピンディスプレイの機種として、KGS社のブレイルノート40A、46C(46D)およびブレイルメモBM16に対応しており、それらをここで選択します。ピンディスプレイを使用しない場合は、「使用しない」を選んでください。

4. テキスト画面の編集

テキスト画面は「メモ帳」に似たエディタです。残念ながら改行マークや改ページマークが画面に表示できません。改行マークなどを確かめながら編集したい場合は、別の適当なエディタで編集してその結果を保存すれば、直ちに再変換が可能ですからあまり不自由なく目的を達することができるでしょう。

コピー・切り取りなどの操作は、まず最初に範囲指定をします。範囲指定は、開始位置にカーソルを持って行き、シフトキーを押しながら終点位置までカーソルを移動するという標準的な方法で行います。コピーは、下段のステイタスバーの「コピー」の項目をクリックするかCtrl+CまたはCtrl+Insキーで、切り取りは同様に「切り取り」の項目クリックか、Ctrl+Xまたはシフト+Delキーで、また、貼り付けは同様に「貼り付け」の項目クリックか、Ctrl+Vまたはシフト+Insキーで行われます。

「連動ジャンプ」はすでに説明したように、変換画面とほぼ同じ位置にジャンプします。「ジャンプ」は位置を文頭からのバイト数で指定します。

文字列の検索は、ステイタスバーの「検索」を押します。「置換」機能にはまだ対応していません。

ステイタスバーの「テキスト保存」は、この画面で編集した結果を元のテキストファイルに上書き保存するものです。しかし、ここで上書き保存しても、再変換は自動的には行われないので、この編集結果はそのままでは点字画面に反映されません。テキスト画面での編集結果を点字画面に反映させるには、点字画面のどこかをクリックしてフォーカスを点字画面に移します。そうすると再変換が自動的に行われて、点字画面

がテキストファイルの編集結果を反映したものになります。この場合、特にテキスト保存をしなくても、フォーカスの移動だけでテキスト保存は自動的に行われます。

このテキスト画面は、視覚障害者のための音声処理に対応していないので、音声が必要な場合は別にWZエディタを用意していただき、WZに特殊なマクロを組み込んでWZとEIBRKWを連携させるようにしていますが、その詳細についてはここでは省略します。

以上で、Windows版のEibrkwについての基本的な操作方法についての説明を終わります。以下には「その他」として、関連するEibrkwの機能や、Eibrkwのこれからの開発の方向について若干説明を加えます。

5. その他

(1) EibrDicwについて

EibrDicwは、横浜漢点字羽化の会が開発した、視覚障害者のためのWindows版の電子辞書です。漢字（単漢字または熟語）を入力するとその読みがわかり、読みを入力すると漢字がわかります。MS-DOS版はEIBRDI C.EXEです。95Reader（98Reader、2000Readerを含む）による音声出力に対応し、画面に表示される読みや漢字がペンディスプレイに点字で表示されます。その使い方の詳細についての説明は省略しますが、このソフトが必要とするデータファイルをインストールすれば、Eibrkwから直接その辞書機能が利用できるようになっています。データファイルの収容語数は、現在のところ単漢字・熟語合わせて20万語余りですが、これは随時内容が増強されており、またソフト自体もしばしば改訂されて機能が強化されています。

検索語の漢字入力、Eibrkwの点字画面からは、目的とする単漢字または熟語を先に範囲指定してCtrl+Dキーを押すと、自動的に入力が完了して直接検索が行われます。範囲指定をしないでCtrl+Dを押すと、カーソルが漢字の直前にある場合はその漢字1個が指定されたものと見なして検索が行われますが、カーソルが文字のないところでCtrl+Dキーが押された場合は、検索語の入力待ちの画面になります。このような場合、



その漢字入力には仮名漢字変換システムを使うのが一般的ですが、直接漢字を入力することもできます。したがって、漢字があっても、その表す漢字がわからないときに漢字から漢字を検索することもできるということです。ただ、点字入力は複数のキーを同時に押して点字のパターンとする従来のやり方ができないキーボードが多いので、特殊な方法を採用しています。

(2) EIBファイルについて

EIBファイルについては、当シリーズの6回目にMS-DOS版について説明しましたが、このWindows版でも同じ機能を使うことができます。それは、点字画面の「変換」メニューの「eibファイル変換」を選択することによって可能です。

このファイルは、拡張子が「.EIB」で、点字コードのみから成るファイルで、これを読むにはEIBRKR.EXEという別のソフトが必要ですが、これはまだMS-DOS版しかできていません。Windows版では、EIBファイルを読む機能もEibrkwに取り込む予定です。これが完成すれば、EIBファイルがその場で漢字仮名交じり文(テキスト文)に変換され、画面に表示されるので、音声出力をしたり、ペンディスプレイに点字を表示したりすることができます。ただし、ここでのテキスト文は画面表示だけで、テキストファイルとしての保存はできません。これは、著作権法が改正されて、「点字コードのみから成る電子データは、著作権者の許諾なしに配布できる」ということになったのを受けたもので、著作物をEIBファイルとして広く読者に配布するということを、われわれの活動の1つの柱として行きたいと考えています。

(完)

以上の内容について詳細を知りたい方は、直接岡田代表 (Tel 03-3613-3160、Eメール: takeshi-okada@h2.dion.ne.jp) または木下 (Tel 045-803-9464、Eメール: kino_kaz@d1.dion.ne.jp) に電話またはEメールでお問い合わせ下さい。